

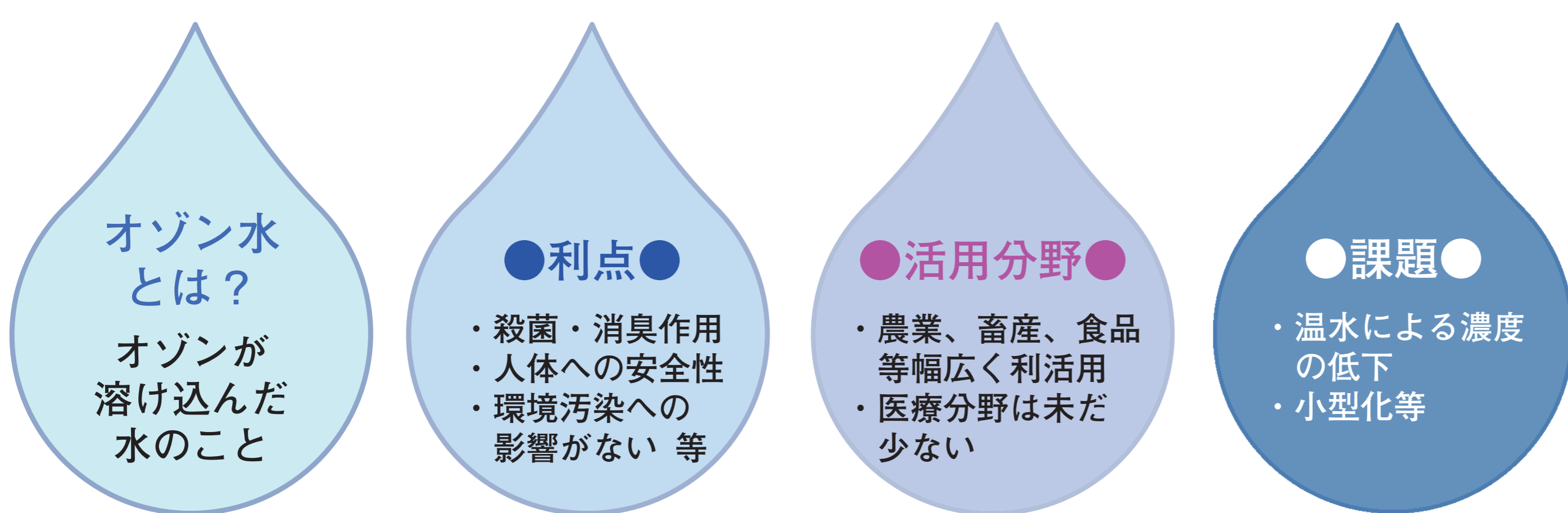
患者中心型デザインワークショップ手法を用いた オゾン水生成装置の普及戦略の検討

研究概要

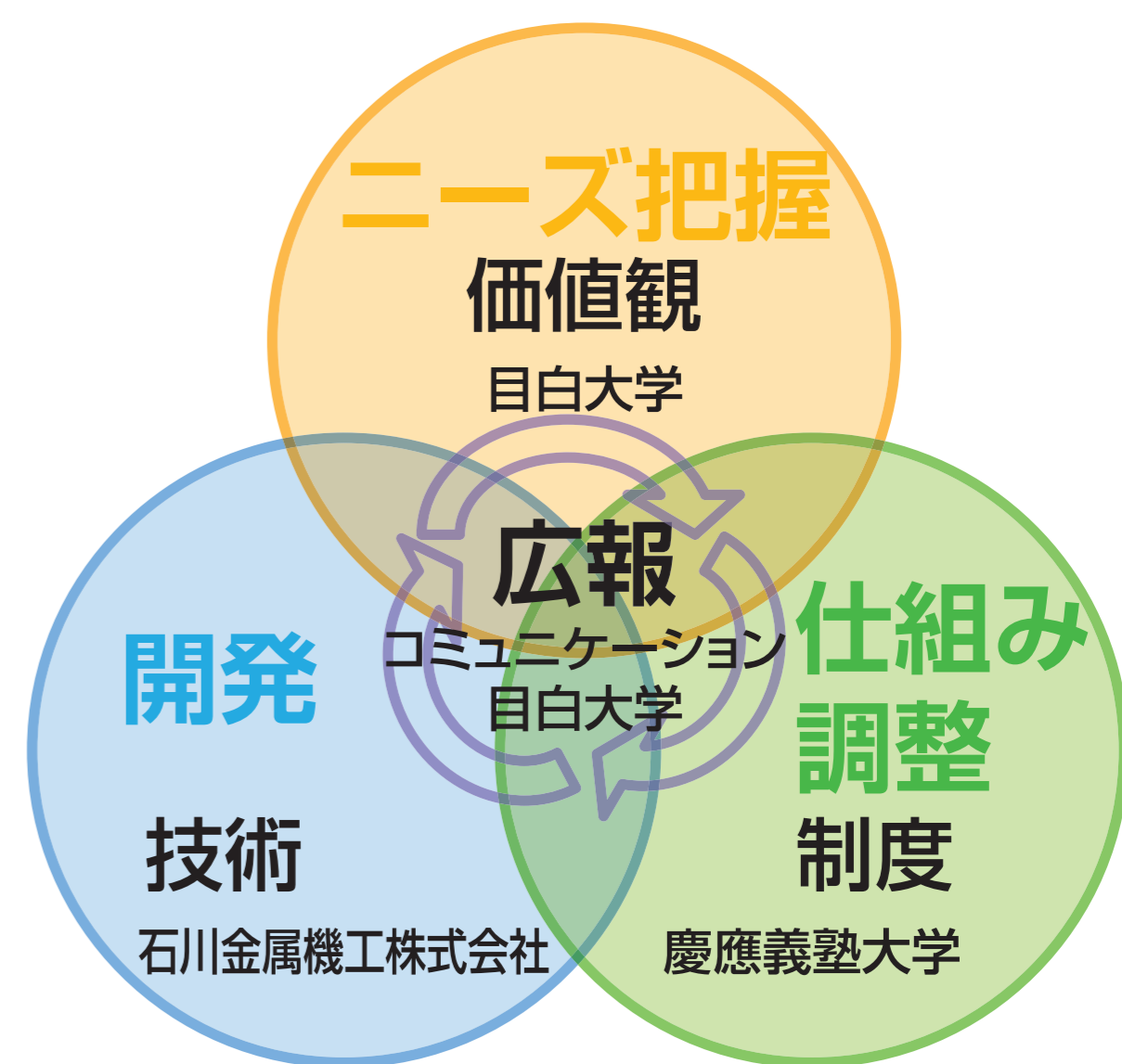
患者中心型デザインワークショップ手法を用いて、医療現場におけるオゾン水生成装置の普及を阻む要因を探り、操作性や簡便性、医療従事者が使用したいと志向する装置のインタフェースを明らかにし、その普及戦略を検討する。

[共同研究者] 目白大学社会学部メディア表現学科 専任講師 西尾典洋
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任准教授 西山敏樹
石川金属機工株式会社 井手久之・納屋一成

●オゾン水の概要



●研究体制



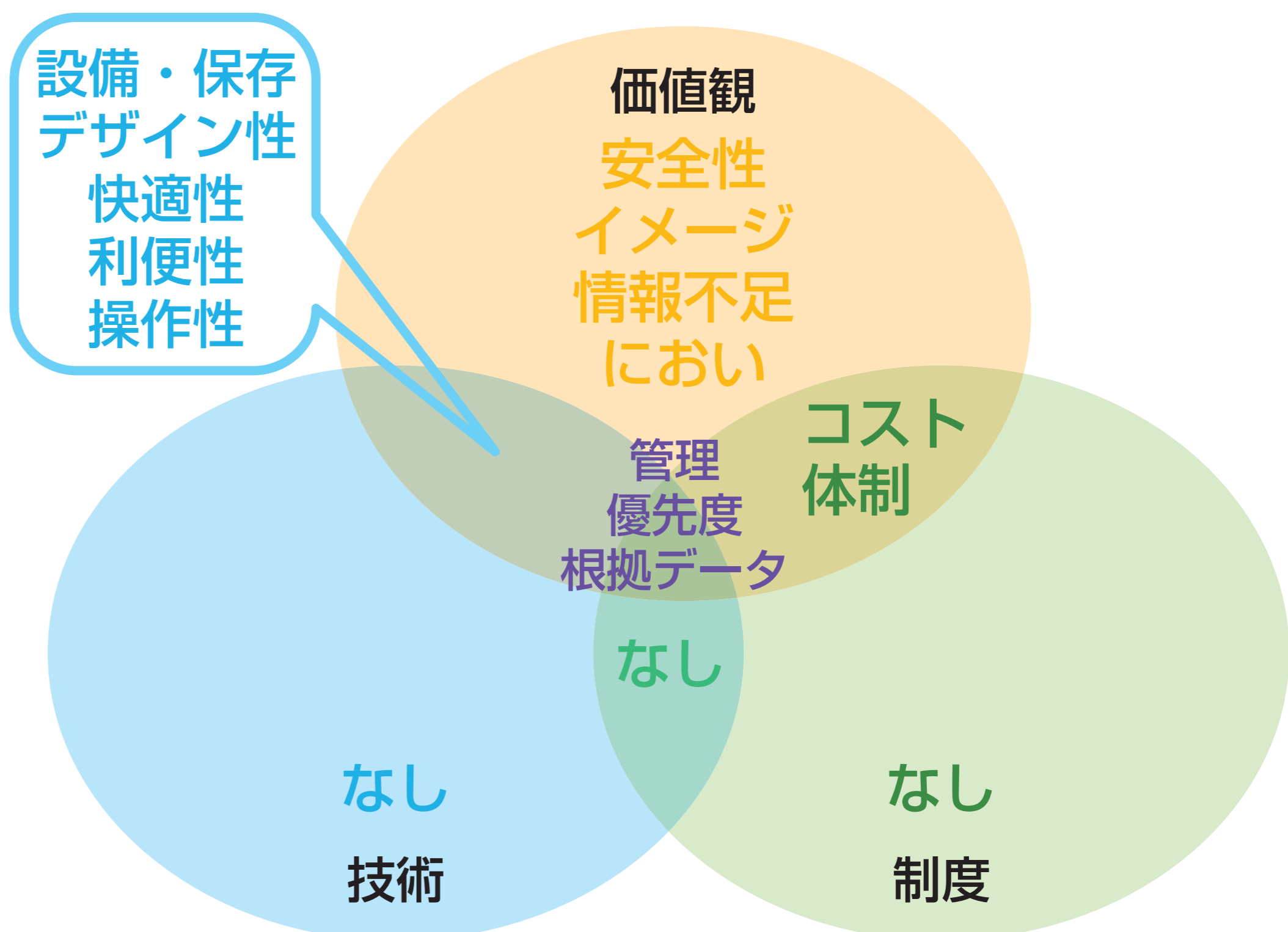
●生成装置に関する技術



オゾン水生成装置
(石川金属機工株式会社)



●本手法による普及を阻む事項



研究成果 の活用

- * 企業・大学・自治体：ものづくりの実践、開発手法の創出、教育実践、制度設計
- * 医療機関・介護施設：ものづくりの実践、看護教育・技術、介護方法への応用
- ◎ 看護・介護・福祉分野のものづくり
- ◎ システムデザインや仕組みづくり
- ◎ 教育・学習支援に関する学びづくり

患者中心型デザインワークショップの手法は
多様なニーズに応用可能です